

令和7年度研究について

研究推進委員会

1 研究主題

児童の「思考力・判断力・表現力」の育成
～学び合いによる授業づくりを通して～

2 研究主題について

新学習指導要領では、児童に必要な素質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取り組みを活性化していくための視点として「主体的・対話的で深い学び」が示された。県で取り組む「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを重視し、それを活用した授業改善を進めていくことが必要である。

本校では、「自ら伸びようとする子ども」の育成を目指し、日々の教育活動を通してその具現化に努めている。児童が他からやらされるのではなく自らやろうとすることで、知識の獲得、技能の習得、思考の広がりにより達成されることをめざしている。昨年度は、算数科で「共に学び合う授業づくり」について研究をした。その成果として、目的を明確にしてから対話的な活動に取り組むことによって、普段は話し合いに消極的な児童も積極的に参加することができた。また、児童は、他の児童と交流することで様々な考えを共有できることに気付くことができた。しかし、まだ自分の考えを伝えることに苦手意識をもっていたり、互いの考えを伝えるだけで話し合いが深まらなかったりと、児童の「思考力・判断力・表現力」に課題がみられた。そのため、今年度は、全ての教科等において学習の基盤となる言語能力を育成する国語科で、研究を進めていく。「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用し、児童が互いに学び合う場を工夫して設定することで、児童の「思考力・判断力・表現力」を育成できると考え、本主題を設定した。

3 仮説

子どもに付けさせたい力に合わせた言語活動や学び合う場を設定すれば、子ども同士の学びが深まり、「思考力・判断力・表現力」を育成できるだろう。

4 仮説について

国語科の目標には、「言語活動を通して」「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」とある。まずは、子どもの実態を知り、その単元で育成したい資質や能力を把握する。そして、そのためにはどのような言語活動を設定すべきか考えることが大切である。子どもにとっては単元のゴールが明確になり、そこにたどり着くために、友達と学び合う場の必要性を感じるようになるだろう。子ども同士の対話や学び合いも活発になり、深い学びへつながるに違いないと考える。それにより、「思考力・判断力・表現力」も育成されることが期待される。

5 見取り方

①意識調査（4月、9月、2月）

②学力調査型テスト（5月、2月）